

密教系
宗派

平安仏教界の巨人・空海が興した深遠な宇宙観

Shingon syu

真言宗

Japanese
Vajrayana, tantra, and an illustrious family

空海が始めた我が国初の本格的密教は、曼荼羅の思想がその中心。大日如来がすべての根本であり、万物は大日如来と深い関わり合いを持っていると説く。

中国から密教の秘儀、
文物を持ち帰った空海

空海が開いた真言宗は密教である。密教とは4世紀頃にインドで大乗仏教から派生した流派のこと。7世紀頃には組織的・体系的に完成され、唐に伝えられた8世紀頃に最盛期を迎えた。空海が遣唐使として唐に渡った9世紀初頭は、真言宗が中国で最新流行の思想の一つだったということに

なる。

空海が入唐したのは804年である。総勢4隻の遣唐使船のうち、空海は第1船に乗っていたが、第2船には、後に空海とともに日本の仏教界のリーダーとなる最澄がいた。だが、この时空海と最澄が言葉を交わすことはなかっただろう。空海が一介の修行僧身分だったのに対し、最澄は宮中に仕える内供奉に任じられていた還学僧だったからだ。還学僧とは短期間に視察する僧の

ことで、多額の費用と通訳、そして弟子の動向が許されていた。その一方、名もなき留学僧の一人に過ぎなかった空海は、何つ保障のない身分であり、唐での20年間もの滞在期間が義務づけられていたのだ。

しかし唐に入ると空海の名声は一挙に高まる。わずか2年という短い滞在期間で空海は多くの収穫を得ているが、なかでも当時の中国密教の第一人者だった大阿闍梨・惠果との出会いは大きかった。惠果から空

宗祖	空海
本山	高野山金剛峰寺
本尊	大日如来
根本経典	大日経・金剛頂経